

2. 調査報告書

主任調査員氏名 新納 祐子 / 同行調査員氏名 石松 成子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい暮らしを続けていくためのケアサービスができるように、ホーム開設時に独自の理念がつくられている。地域密着型サービスとしての理念を盛り込むまでにはいたっていない。	○	これまでの理念に加えて地域密着型サービスとしての役割を目指した内容の理念を作り上げることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は定期的なケア会議等で理念について確認・共有し、理念に基づいたケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、地域の文化祭へ参加したり、作品の出展、小学校の運動会等に参加している。また、法人主催の夏祭りには、地域の住民も招待するなど、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で話し合っを行なった。評価の結果を踏まえ、ホームの運営、ケアの改善等のために話し合いながら、さらなるサービスの向上に取り組んでいる。		

グループホーム武岡ハイランド

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族・地域住民の代表・有識者等に参加の呼びかけを行なって運営推進会議を開催している。ホームについての情報や活動を報告し意見交換を行い、サービスの向上に生かす取り組みをしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に地域包括センターや福祉事務所の担当者と利用者の問題解決のために連携を取っている。介護相談員の受け入れも行なっていて、運営推進会議への参加も呼びかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書発送時に、「ふれあい通信」を発行し、利用者の写真や近況報告、行事予定を知らせている。金銭管理の報告も個々に行なっていて、確認のサインをもらっている。家族等の面会時には、入居者の様子を話したり、遠方の人には、電話で話をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明書で苦情相談窓口についての説明を行なっている。玄関に意見箱を設置し、年1回家族アンケートを行い、意見の収集も行っている。また、運営推進会議に利用者、家族代表も参加してもらい意見等を運営に反映する取り組みを行なっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列の事業所からの職員を配置するなど、利用者との馴染みの関係づくりに配慮し、スムーズに対応ができています。新採用者は、きちんと紹介を行い、利用者にも教えてもらうことから馴染みの関係をつくっている。		

グループホーム武岡ハイランド

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者・職員の段階に応じた研修を交替で受ける取り組みをしている。受講した職員は報告書を作成し、会議時には報告している。資格の取得も積極的に勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のホームと勉強会をしたり、交流・連携・協力をしている。法人の全国的な同業者とのネットワークや交流があり、法人の機関紙も発行されていてサービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人・家族に説明・見学してもらっている。必要時は自宅や病院を訪問し、納得して入居してもらっている。また、普段から交流を行なっていて馴染みながらの入居の工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の調理や季節のお菓子作り、野菜作り等、職員は、教わりながら支えあう関係を大切にしている。		

グループホーム武岡ハイランド

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや日ごろの会話の中で一人ひとりの思いや意向を聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスには、本人、家族、職員も参加して、意見を出し合いアセスメントやモニタリングを行い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎、期間に応じた見直しを行なうようにしているが、毎月のカンファレンスでも見直し、話し合いを行っている。状態の変化、家族の希望等があるとき、随時の見直しも行なっていて、現状にあった計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助は基本的に家族にしてもらっているが、緊急時や家族の依頼があった時は、ホームで通院介助を行なっている。動物園や花見、ドライブなどの外出支援も実施している。		

グループホーム武岡ハイランド


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医との関係を大切にし、受診や往診を受けられるよう支援している。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>訪問看護ステーションと契約し、医療連携体制はとれており、重度化や終末期のあり方の方針については、指針を定めて、職員間で周知し、家族にも状況に応じて説明がなされている。</p>		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人のプライドを傷つけないようにトイレ、入浴時などの声かけや対応、ケアに配慮している。記録簿等の取り扱いも個人情報保護に基づいて行なっている。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床、就寝、入浴、食事等、一人ひとりのペースを大切に支援している。散歩や買い物等、できるだけ本人の状態や希望に配慮しながら柔軟に対応している。</p>		

グループホーム武岡ハイランド

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見を聞きながら献立を決めて、買い物に出かけている。食事の準備、片付けは職員と利用者が一緒に行なっていて、職員も一緒に同じ食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	単純泉の温泉で、一人ひとりの希望やタイミング、体調に合わせて入浴支援を行なっている。また、同敷地内にあるデイサービスの浴場は広く、露天風呂もあり希望者は出かけて行って入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞・雑誌を読んだり、食事の準備、片付け、掃除、洗濯干し、洗濯たみ等、生活歴や本人の力量、役割など一人ひとりに応じた楽しみごとの支援を行なっている。ホームで動物(犬・猫)を飼っていて世話や散歩も気晴らしになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭に畑を作っていて、野菜の手入れをしたり、散歩や買い物等、戸外に出かけるための支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、管理者、全職員が鍵をかけないケアの大切さを認識している。日中は勝手口も開放していて、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		

グループホーム武岡ハイランド

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回隣接する事業所の職員も参加、協力し消防訓練を行っていて、災害時の協力体制が整備されている。救命講習を受けた職員もいて、災害時の非常用食料・備品も法人全体で準備している。		地域の人々の協力を得られるよう働きかけることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人内の栄養士に確認してもらい、栄養バランスには気をつけている。食事量、水分量はチェック表を使って確認している。体重の管理も行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼リビングにソファが置いてあり、腰掛けられる高さの畳コーナーがある。利用者は、ゆったりと過ごしている。テーブルの上には季節の花が活けてあり、光や音楽の音量にも配慮し居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや布団はホームで用意されている。家族の希望を聞き、使い慣れたタンスや椅子を持ち込んでいる。また、使い慣れた日用品や好みのものが飾られ、安心して過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。